



《教育長メッセージ 第76号》

『次代を・将来を担う』

私は、次の時代を、将来を生きることはありません。

ありがたいことに、長生きできたとしても、その社会を今と同じように懸命に働いて、担うことはできないのです。

できることは、少しでも、次の時代を担う若者や将来を担う子どもたちの迷惑にならないようにすること、若者や子どもたちの活動を支え、見守り、応援することでしょうか。

10月30日の土曜日、海老名青年会議所の若者たちが、「えびフェス」の事業として、学校の校庭を利用して、市内9か所で花火を打ち上げ、コロナ禍の海老名市民に元気をプレゼントしました。

実は、7月に、海老名青年会議所の代表者が、相談したいことがあるということで、面会をしました。

みんなで話し合って、コロナ禍で過ごしている市民のために、自宅からでも見えるように、市内19の小中学校の校庭で花火を打ち上げられないかという相談でした。

私は、何とかこの若者たちの前向きな思いを支えなければ、叶えなければと思いました。

40年ほど前、教職員として、小学校で学級担任をしていた頃、私は、あえて、学級の子どもたちの活動の当番活動と係活動を明確に分けて取り組んでいました。

当番活動は、自分たちのよりよい生活を維持するために、全員が分担して役割を果たすもので、日直、給食、清掃を当番活動としました。

係活動は、自分たちで工夫して、自分たちの生活をよりよくするための、より楽しくするための活動としました。ですので、係活動はその活動が行われなくても学校生活に支障はなく、係の仲間と、自主的に活動すれば、よりよくなるというものでした。

係活動には、あそび係、カラオケ係、クイズ係、手品係などがありました。どちらも大切な活動ですが、私が、より力を入れたのは係活動です。

その意図は、私に指示されてやらされるのではなく、自分たちで係の仲間と話し合い、活動を企画し、その準備を進めて、その活動を成功させる

という体験を積み重ねてほしいというものでした。

子どもたちは、係の活動を、授業時間を使って行いたい場合は、私のところに交渉に来ます。

私は、係で話し合った企画内容をチェックし、許可を出します。でも、再度の話し合いが必要なように助言し、すぐには許可しないようにしていました。

それは、自分たちで、みんなで話し合っただけで決めたことを実行し、学級もすべての仲間に喜んでもらえるという成功体験をより深く、高いものにしたというイジワルでした。

私は、これからの次代を担う、将来を担う、若者や子どもたちに、一番に必要な力は、

- ひとりひとりの、多様なすべての人が、自分がおかれた環境や自分の特性（人種や性別、年齢、職業、障がい、疾病など）にかかわらず、お互いの生きる権利を尊重し、お互いに支え合って生きる力

- 目の前の課題や、先にある未知の未経験の課題についても、多様な特性の人たちがお互いに、思い、考え、意見を出し合い、話し合い、それを解決して、持続可能なよりよい世界、社会を作り上げる力

だと、思っています。

そのような意味で、若者や子どもたちには、今の生活の中で、身近にいる仲間たちと話し合い、協力して、物事を成し遂げる成功体験を積み重ねてほしいと考えるのです。

そして、未来を生きることのない私は、今を生きる者の責任として、それを応援しなければならないと考えるのです。

秋の夜空を彩った花火がきれいでした。

次回は、『日の出』と題して、毎日、昇る、朝日について、自分の思いや考えを述べてみたいと思います。